

## 第 1 回部会（令和 8 年 4 月 10 日）の議論を踏まえた追加質問等

## 【1 報告者数の選定に関する変更】（標本設計について）

(西郷部会長)

標本設計においては、「資本利子・地代全額算入生産費」の標準誤差を目標精度の指標としているとのことだが、標本の大きさの算出式では生産量も用いられている。具体的な品目別の推定量を示すとともに改めて説明を求める。

## 【2 調査票・調査事項の変更】

(小針専門委員)

&lt;①調査事項と集計項目の関係について&gt;

本調査が、どのような事項を把握し、それらが、どのような集計項目に活用されているかという全体像を明らかにしてほしい。

&lt;②飼料用米に係る調査項目について&gt;

米生産費調査票（個別経営体）は、専ら食用米を生産するための各種費用を把握するための調査票であるが、調査票の後半では、飼料用米に係る作付面積や生産量、費用、労働時間についても詳細に回答させるものとなっている。

これら項目は、飼料用米のコストが政策目標として設定されたことを踏まえて追加されたものと認識しているが、当初から参考集計として簡易な集計がなされるにとどまるものであり、当時の政策目標も今は設けられていないと認識している。

本調査が非常に報告負担の重い調査であることを踏まえると、調査事項としての優先度は低く、これまでのデータの把握状況も勘案の上、削除すべきではないか。

以上の意見について議論する上からも、過去 5 年分の「米生産費調査票（個別経営体）の回答経営体数」、「飼料用米生産費の算定対象経営体数」及び「各費用の飼料用米の割合」の推移データを示してほしい。

※ 参考：別紙 1（飼料用米に係る集計表）

<③「栽培の特徴」について>

農産物に係る各種調査票の末尾に設けられている「栽培の特徴」の部分は、現在記述式となっており、自計を想定した場合、報告者にとって回答しにくく、集計にも手間がかかる。

今回の変更の大きな方向性である自計の可能性の拡大という観点から、例えば、主要な項目に選択肢を設け、特記事項のみ記述する方式に変更することで、報告者の負担軽減と集計の効率化が期待される。

については、当該項目の具体的な利用実態を踏まえた上で、実態に即した形での見直しを求めたい。

※参考：別紙2

## 米生産費・参考

## 【参考】飼料用米の生産費

令和6年産飼料用米の生産費は、令和6年産米生産費（個別経営体）の調査対象経営体のうち、飼料用米の作付けがある経営体（97経営体）を対象に、各費目別の食用米の費用（10a当たり）を100とした場合の飼料用米の割合を把握し、これを令和6年産米生産費（個別経営体）の「平均値」に乗じること等により算出した。

単位：円

区 分	平 均
10a当たり	
費 用 合 計	105,320
うち物 財 費	75,440
労 働 費	29,880
生産費（副産物価額差引）	104,340
支払利子・地代算入生産費	110,150
資本利子・地代全額算入生産費	123,460
60kg当たり全算入生産費	13,230

注： 60kg当たり全算入生産費は、飼料用米の作付けがある経営体（97経営体）の飼料用米の10a当たり収量の平均値（560kg）を用いて算出した。

令和〇年産の水稻栽培の特徴

1 作柄概況

2 被害の状況や品質

3 栽培状況の変化

(1)新たな品種の導入

(2)直まき栽培の導入

(3)新たな設備・機械の導入

(4)その他(新たな栽培技術の導入)